

「今、私ができること」

佐賀県 武雄市立御船が丘小学校 6年 松尾 羽実

私が住んでいる武雄市は、令和元年8月の佐賀豪雨でたくさんの家屋が浸水し被害にあいました。あれから2年が経ち、復旧、復興作業も進み、浸水被害にあった方も自分達の生活を取りもどしつつありました。

しかし、8月11日頃から長雨が続き、時には激しくたきのように降りました。そして、13日の夕方から夜にかけては、ますます雨音が強くなりました。夜寝ていた私は、大音量で鳴りひびく、緊急速報メールにおどろいて何度か目が覚めました。そしていつもより早く目が覚めた私は、母とベランダに出て外を見渡しました。すると近くの用水路から水があふれていて、あふれた水は行き場がなくなって、道路に流れ出ていました。駐車している車は、タイヤが水に浸かっているのが見えました。あわててテレビを点けると、見慣れた景色が映っていて、そこには、家の2階に居た女性が消防隊員らしき人に助けを求めている姿でした。家の1階は浸水していて、見渡すかぎり泥水で、道路や田んぼの境目が分からなくなっていました。そして、近くの武雄温泉では裏山で土砂崩れが起きていて、幅約30メートル、高さ10メートルにわたり、石垣と土砂が駐車場に流れこんでいました。もしここに家があったらと考えると、私は、おそろしくなりました。そこで私は、なぜ土砂災害は起きるのかを調べてみました。土砂崩れとは、急傾斜地にある土砂が、地震や豪雨などによって、急激にくずれ落ちることです。土砂災害は、主に、土石流災害、地すべり災害、がけ崩れ災害、火山災害の4つに分けられます。今回、武雄市で起きているのは、地すべり災害です。地すべりは、比較的ゆるやかな斜面で動き出すことが多いですが、広範囲にわたって起こる事があるので、注意が必要です。そこで私は、武雄市防災アプリの「たけぼう」でハザードマップを開いて、危険な場所を確認しました。土砂崩れが起きた武雄温泉周辺は、特別警戒区域になっていました。そして、私の家の近くの裏山も危険な場所であるとしめされていました。ハザードマップでは、いざというときの避難場所を確認できたり身の回りの災害の危険性を確認できたりするのでとても便利だと思いました。

今回調べて分かったことは、自然災害は、いつ起こるのか予測できないということです。だから私たち一人一人が災害発生時にこまらなように、備えをすることが大切です。私の家では、防災のために、特別なものを用意するのではなく、できるだけ、普段の生活の中で利用している食品を備えるようにしています。そして、非常時に持ち出しやすいように、前もってリュックサックに入れています。災害時は、スマートフォンが使用できなくなる可能性があります。なので、私は、お父さんから公衆電話の使い方を教えてもらいました。まだまだ分からない事があるので、積極的に学校や地域の防災訓練にも参加しようと思います。